

平成28年度事業計画書

I 概況

1. 入館者数 110,000人

平成27年度は入館者数増と認知度を高めるため、様々な展示・イベントを開催いたしました。特に、高校野球100年記念として、当博物館では初めて高校野球をテーマとした特別展「高校野球と野球殿堂」を開催、日本高等学校野球連盟のご協力により都道府県連盟を通じ全ての加盟校、約4000校に対して当館パンフレットを配布し誘客に努めました。しかしながら、職員2名の退職による戦力減が影響し毎年年間最多入館者数月の8月が苦戦したこと、東京ドーム受配電盤設備更新工事による15日間の臨時休館の為、最終的には、前年比5%減の約87千人になる見通しです。

一方、前年度に引き続き研修の一環としてプロ野球新入団選手約120名、そして新たな試みとして東京六大学野球の新人選手約230名の博物館見学を実施する等、教育施設としての役割が増しております。

平成28年度は、本年3月から当館殿堂ホールに於いて野球殿堂入りの方々を動画・写真等で紹介するスマートフォン向けアプリケーションの新規導入、さらに来年3月開催予定のWBCにより、3年振りの入館者数110,000人を目指してまいります。

2. 野球殿堂

今年の野球殿堂入りが決定した斎藤雅樹氏、工藤公康氏、故・榎本喜八氏の表彰式を、7月中旬に開催されるオールスター戦で行います。また、特別表彰の故・松本瀧蔵氏と山中正竹氏の表彰式につきましては、現在検討中であります。

恒例通り、表彰式終了後に、顕彰者ゆかりの品々を展示する「殿堂入り特別展」を殿堂ホールにて開催いたします。

3. 公益法人移行後の取り組み

「公益財団法人」として4年目を迎え、順調に推移していますが、内閣府による監査が新年度に入る予定であり、各種規程の見直しと整備を行い、制度に則ったさらなる内部体制の強化を図ってまいります。

4. 維持会員数の拡大と制度の充実

維持会員加入を促進するため、会員制度の見直しを図り、各種特典の充実と積極的な案内活動を行います。

5. その他

平成27年3月の理事会でご報告いたしました「野球殿堂博物館検討委員会」についてですが、5月に館内に“内部検討委員会”を設け、準備を進め、本年1月に外部の有識者・関係者による「在り方検討委員会」の第1回会合を開催いたしました。今後は6月の評議員会での報告を目途に、提言を纏めていただき、その後は提言を踏まえ、博物館運営に活かしてまいります。

Ⅱ 館内活動

【収 集】

< 図書室 >

- (1) プロや高校、大学、社会人、軟式、女子野球等の資料を収集する。
- (2) 外国語の野球に関する書籍・雑誌を収集する。
- (3) 野球漫画を収集する。

< 学芸員室 >

- (1) プロ野球、アマチュア野球を通じて、顕著な記録に関する資料やタイムリーで話題性のある資料を積極的に収集する。
- (2) プロ野球 Today の各球団コーナーを 2016 年シーズンにふさわしく更新するため各球団に協力を依頼し、2015 年に活躍した現役選手の用具、各球団監督のサイン色紙（キャッチフレーズ入り）を収集する。
- (3) 2016 年度の両リーグ MVP、新人王のサインボール、色紙を収集する。
- (4) 2016 年オールスターゲーム、2016 年日本シリーズのビデオを制作する。
- (5) 2016 年野球殿堂入りの人々の紹介映像を制作する。
- (6) 侍ジャパン全世代のサイン色紙、集合写真等を収集する。

【整理・保管・保存】

< 図書室 >

- (1) 図書室内の整理を行い、分類別の配架を徹底する。
- (2) 寄贈された資料を整理する。
- (3) スプリンクラー対策のため、セミエアタイトのロッカーや、はっ水加工した中性紙のボックスを継続して設置する。
- (4) 紙の酸化による資料の劣化を防ぐため脱酸処理を行う。
- (5) 明治時代の資料や各連盟が発行している資料などの電子化を検討する。
- (6) 野球界の出来事と連動する書籍を「図書紹介コーナー」で紹介する。
- (7) 同一資料が多数ある場合、国立国会図書館などの図書館へ寄贈し、野球関係資料の分散保存を進める。
- (8) 図書検索装置のデータ更新を定期的に行う。

< 学芸員室 >

- (1) 分類別収蔵を徹底し、収蔵環境向上に努める。
- (2) 収蔵資料の内、特に写真資料のデジタル化を進め、デジタルライブラリーとして順次公開する。

【展示・イベント】

<特別展・企画展>

- (1) 連盟創立 80 年記念特別展 「草創期のプロ野球」 3 月 15 日～5 月 29 日
- (2) 企画展「大学野球展」 6 月 3 日（金）～7 月 12 日（火）
大学選手権と 40 回を迎える日米大学野球の歴史と、明治神宮球場 90 周年をテーマとする予定。
- (3) 企画展「都市対抗野球展」 7 月 15 日～26 日
会場：野球殿堂ホール
- (4) 夏休み特別企画「野球で自由研究」 7 月 21 日～8 月 31 日
ミニミニ実験やトークショーも実施予定。
- (5) 企画展「名選手のグラブ展」 9 月 10 日（土）～10 月
- (6) 企画展「日本野球ポスター展 2016」 11 月～12 月中旬
- (7) 企画展「野球報道写真展 2016」 12 月下旬～2017 年 1 月下旬
- (8) 企画展「WBC 展」 2 月～

<常設展>

- (1) 月に一度、5～10 点程度を目途に、展示資料の入れ替えを行う。
- (2) プロ野球 Today、アマチュアコーナーなどの各記録や写真を更新する。また、アマチュアコーナーの年表、決勝戦スコア一覧パネルのリニューアルを行う。
- (3) 東京五輪開催(2020 年)に向け、外国人来館者に対応するため展示やキャプション、サイン関係の国際化を目指して見直しを行う。特に、主な解説文や各種案内などに英語表記を増やす。

<コーナー展>

- (1) 館内各所で、ニュース性・話題性のある展示を積極的に行う。
- (2) 東京五輪での野球競技実施決定に向け、「野球とオリンピック」の特集展示を行う。
- (3) シーズンオフの企画として「野球と映画」をテーマに、映像シアターでの野球映画の上映や、野球映画のポスターの展示を行う。

<イベント>

- (1) 野球シーズン開幕イベント 3～4 月
・審判員トークイベント

・ミズノ バット製作実演 等

- (2) 子供の日イベント 5月5日
イベントホール「バッターボックス体験」を利用して、小・中学生を対象にしたバッティングコンテストを行う。
- (3) 開館記念日イベント 6月12日
来館者へ記念品プレゼントを行う。
- (4) 12球団デー
- (5) 野球殿堂入りの方々による1日館長、トークショー
- (6) 展示解説ツアー

【調査・研究】

- (1) 企画展・特別展開催に際し、それぞれのテーマについて情報を収集する。
- (2) 引き続き19世紀の日本野球の調査研究を続ける。
- (3) 自由研究に対応する資料を作成するため、調査研究を行う。

【学校教育との連携】

- (1) 学芸員課程の履修学生を、夏休み期間中に実習生として受入れる。また、夏季の実習とは別に、夏休み以外の期間にインターンシップ型実習生を受入れる。
- (2) 学芸部による小・中・高校生の体験学習の受け入れを積極的に進める。

【普及・広報活動】

- (1) 企画展やイベント情報を積極的にテレビ、ラジオ、新聞、情報誌などにリリースし、マスコミへの広報に努める。
- (2) ホームページやSNSで企画展やイベント情報を紹介するとともに、収蔵品紹介の内容をさらに充実させる。
- (3) 当館を紹介する記事、番組の取材や撮影に積極的に協力してPRに努める。
- (4) NPB、アマチュア野球関係団体に働き掛け、当館を利用したイベント、記者会見等を積極的に誘致し、館内の有効利用に努める。また、休館日や閉館後を利用したイベントの企画を研究する。
- (5) 旅行代理店、学校等に働きかけ、修学旅行や生涯学習など学習ニーズの高まりに対して、受け入れを推進し、質的、量的に積極的に対応する。
- (6) 当館季刊情報誌「ニューズレター」の内容の充実を図り、PR広報誌として役立てる。
- (7) 新年度のパンフレットを作製し、来館者等に配布する。
- (8) 維持会員の募集を積極的に促進する。

(9) 国際博物館の日（5月18日）に協力する。

【大会・会議等への参加】

(1) 日本博物館協会や日本図書館協会等と連携を保ち、情報交換のため各大会、会議等に参加する。

【建物設備の維持管理】

(1) 空調設備の室外機、室内機の保守点検を年4回専門業者に委託して維持管理につとめる。

(2) 映像設備のランプ交換を年1回行う。

(3) 消防設備の保守点検を年2回行う。

(4) 自動扉の点検を年3回専門業者に委託して行う。

(5) エレベーターの保守点検を年4回専門業者に委託して行う。

(6) エレベーターの機能維持工事（制御盤内リレー等交換）を行う。

(7) 受付ポスレジシステムの点検を年2回専門業者に委託して行う。

(8) 入館者用発券機のロール紙を発注する。

(9) 電話システムの全体交換工事を行う。

【収益事業】

(1) 統一球、アオダモ製品、当館オリジナル商品の販売とともに、新商品の開発・販売を行う。

(2) 斎藤雅樹氏、工藤公康氏の野球殿堂入り記念サインボールをNPBオンラインショップで販売する。

Ⅲ 館外活動

(1) 野球界関連の団体、公共団体、類縁機関などの展覧会やイベントに際し、資料貸出だけではなく、企画内容に関する相談にも対応するなど積極的に協力し、野球の底辺拡大に努めるとともに、野球殿堂博物館の認知度を高める。

Ⅳ 野球殿堂関連の事業

(1) 平成28年に野球殿堂入りされた斎藤雅樹氏、工藤公康氏、故 榎本喜八氏・

故 松本瀧蔵氏、山中正竹氏のレリーフ制作を、彫刻家 松田光司氏に依頼する

とともに、競技者表彰3氏の表彰式を、プロ野球オールスター・ゲームの試合開始前に行う。尚、特別表彰2氏の表彰式については、現在調整中である。

- (2) 野球殿堂入り特別記念展を、夏休み前後の期間に、5氏の写真パネル、借用資料、当館収蔵品等を展示して、殿堂ホールにて開催する。
- (3) 平成29年の野球殿堂入り有資格者の資料をもとに、競技者表彰委員会の幹事による候補者選考委員会を東京と大阪で開催し、次年度の候補者を決定、候補者リストを発表する。
- (4) 競技者表彰委員会委員の異動調査を、各社の代表を通じて行った後、各社代表経由で、各社の委員に投票用紙を配布、期限を定めて記名投票で回収を行う。その後、競技者表彰委員の東京地区幹事により、開票作業を行う。
- (5) 特別表彰委員会候補者選考委員会を開催し、次年度の候補者を決定、特別表彰委員に対して、事前に投票用資料を郵送する。その後、特別表彰委員会を開催し、野球殿堂入りの投開票を行う。
- (6) 競技者・特別両委員会の平成29年野球殿堂入り記者発表を当館内で行い、終了後、東京ドームホテルにて、野球殿堂入りされた方々と関係者の懇親会を行う。